

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	情報通信工学特別演習第一		
英文授業科目名	Advanced Studies in Information and Communication Engineering 1		
開講年度	2008年度	開講年次	
開講学期	通年	開講コース・課程	博士前期課程
授業の方法	演習	単位数	4
科目区分	電気通信学研究科-情報通信工学専攻-専門科目		
開講学科・専攻	情報通信工学専攻		
担当教官名	各指導教員		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ

<p>【主題および達成目標】</p> <p>情報通信工学の各専門分野における第一線の技術者・研究者となるために、進めている研究テーマおよびその周辺に関連した具体的課題を設定し、調査・立案・遂行・評価のプロセスを実体験し、幅広い知識の獲得と総合技術力の涵養を計る。</p> <p>調査に関しては国内外の最新の文献にアクセスし、さらに学内の関連研究室のみならず場合によっては学会・研究会等に参加し精度を高める能力を養う。</p> <p>実施計画立案に当たっては指導教員の具体的指示に従い、研究資源（研究室メンバーの協力、現有および借用できる施設・設備、資金）を勘案し有効な計画を策定できるようにする。</p> <p>課題解決のための研究遂行においては情報通信工学の最新の手法に基づき合理的に実施し、適切な評価手段によりその達成度を評価する能力を涵養する。</p> <p>実施された研究結果のレベルと、情報通信工学における位置付けを総合的・客観的に評価し、更なる問題点の抽出、今後の研究計画立案にフィードバックできるようにする。</p>
--

【前もって履修しておくべき科目】

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

【教科書等】

【参考書】情報通信工学に関する国内外の学会誌、論文誌に掲載された研究論文、国際会議プロシーディング、国内外専門書などを適宜用いる。

【授業内容とその進め方】

(a) 内容

自らが課題としたテーマに関する調査・立案・遂行・評価のプロセスに関わる演習を行う。報告書を提出するとともに得られた結果を発表・討論する。

(b) 進め方

輪講の実施の最小単位である各研究室において指導教員の直接の指導のもと進められる。また、より広い専門的視野を身につけるように、専攻内を4グループに分け、グループ間の連携を考慮した演習も行う。

(c) 授業時間以外の学習

発表・討論の前に十分な時間をかけて内容を理解しておく必要がある。また、発表・討論を通して理解を深めた事柄については、次のステップで活かすべく整理しておくこと。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

自らが課題としたテーマに関する調査・立案・遂行・評価のプロセスに関して、

- (1) 演習中における教員からの試問に対して正しく答えられているか
- (2) 報告書の内容が十分かどうか

が評価基準である。これらの総合過程を担当する教員のグループ群により評価する。

【オフィスアワー：授業相談】

各指導教員が設定する。

【学生へのメッセージ】

今までは先人が築いた情報通信工学に関する学問を学んで来たわけであるが、今後は皆さんが情報通信工学の分野に1ページを書き加える番である。このためには設定された具体的課題を、自ら具体的に解決してゆく過程を経験を積むことが必要である。

電気通信大学 平成20年度シラバス

【その他】

年度始めに指導教員と議論して策定した「研究指導計画書」を意識し、必要に応じて更新しつつ、進捗状況を自ら把握しながら研究を進めることを推奨する。